FY2025/2025年度

Science, Technology and Society Team

Osamu Sakura
科学技術と社会チーム　佐倉 統

・活動概要

社会や人間が新しい技術と安心して共存できるように、社会やそれを構成する人間や組織、さらに文化や地域の違いが新しい技術に何を求めていくのか？といった技術の社会的形成と技術の社会受容性について、《人間的側面》と《社会・文化的側面》から考える。

《人間的側面》

①技術の社会受容性についての人間側からのアプローチや②社会受容性の高い製品を開発するためのプロセス、さらに③with COVID-19時代のウェルビーイング実現に向けたABW（Activity Based Working）の研究に取り組んでいる

【研究成果】

① 当チームで開発し、国際標準化された利用時品質モデル及びユーザビリティ向上のための人間中心設計活動の書式（CIF: Common Industry Format）の現場適用を検討。利用時品質を費用対効果だけでなく、異なるステークホルダへの影響を関数として表すことができることを示した。

■ 指標化

	ステークホルダ１（従業員）	ステークホルダ２（管理者）	ステークホルダ３（経営者、組織）	ステークホルダ４（自治体）
便益(B)	仕事のやりやすさ（主観評価）	仕事のフォーメーションの組みやすさ（主観評価）	生産性の向上（導入前後比等）	税収増、雇用増（導入前後比等）
安全(S)	ワークライフバランスの向上（主観評価）	チームメンバーの健康維持、安全確保（主観評価）	セキュリティレベルの向上（事故件数等）	事故減（事故件数等）
社会受容性(A)	コミュニケーション活性化（主観評価）	チームの一体化（主観評価）	導入によるブランドイメージ向上（市場調査）	モデル地域（総務省調査等）

便益向上度(B)＝f(SH(B)1, SH(B)2, SH(B)3, SH(B)4)

安全向上度(S)＝f(SH(S)1, SH (S) 2, SH (S) 3, SH (S) 4)

社会受容性向上度(A) ＝f(SH (A) 1, SH (A) 2, SH (A) 3, SH (A) 4)

《社会・文化的側面》

昨年度までのテクノアニミズム論をふまえて、テクノアニミズムを日本のアニミズム思想の歴史と文脈に位置づけ直した。これにより、AIの技術文明論における日本思想の役割を明確にする足場を作ることができた。

【活動総括】

当チームがこれまで企画してきたシンポジウムの中から、「人の動き」、「多様性」、「社会受容性」、「文化」、「標準化」の観点のテーマについて、再度登壇者に対するインタビューを行い、映像としてまとめた。以下のQRコードからアクセスしてご覧ください

ここに
QRコード

発表成果

[1] Fukuzumi, S. and Kasamatsu, K.: Changing work style in Activity Based Working (ABW), AHFE2025.
[2] Fukuzumi, S.: The issues related to agreement of software usage rules and its solution by UX approach, AHFE Hawaii edition, 2025.
[3] Ogawa, R., Sagawa, Y., Shima, S., Takemura, T. and Fukuzumi, S.: A revised method of AI quality-in-use evaluation and its application to AI-enhanced drone, HCII2025.
[4] Umematsu, T. and Fukuzumi, S.: Applying a Quality-in-use Model to Health Conditions Estimation Systems Using Facial Videos, HCII2025.
[5] Sakura, O. and Yuki, M.: Animism and techno-animism in Japan: their roots and modern transformations, In: Global Perspectives on Animism and Autonomous Technology, (Eds. R.M. Becker, A.L. Costa, A. Ventimiglia), 47-70, Springer, 2025.
[6] Sakura, O.: The role of culture in the process of social shaping of technology (SST), CulturIA & B'AI Symposium, June 18-19 (invited talk)
[7] 佐倉統：テクノロジーによる教育ではなく教育のためのテクノロジーを、国際教育夏季研究大会，京都科学大学, 2025年8月6日（招待講演＋パネル討論）
[8] 佐倉統：文化的アイデンティティとしての科学技術――健全な多元主義をめざして，文藻外語大学日本語学科国際シンポジウム～日本研究の独自性と学際性，文藻外語大学（台湾），2025年10月25日
[9] Asano, H., Kozuno, T. and Baba, Y.: Self Iterative Label Refinement via Robust Unlabeled Learning. NeurIPS2025
[10] Mizukami, T.; Social Robots as “props”: A Human-Centric Explanation of Their Moral Agency and Significance, International Journal of Social Robotics, 2026.